

# 加曽利貝塚

## Kasori Shell Mounds

### 加曽利貝塚の4つの価値

#### 日本最大級の貝塚

縄文時代の貝塚は全国に約2,400か所。その3割にあたる約700か所の貝塚が東京湾沿岸に集中しています。

中でも、日本最大級の貝塚として知られるのが加曽利貝塚です。



発掘された貝層断面

#### 縄文文化の繁栄を伝える 2千年続いたムラ

加曽利貝塚に住んでいた縄文人たちは自然と調和した社会を築き、同じ場所で暮らし続けました。



復原された縄文時代のムラ

#### 縄文時代から続く景観が 今も残る

史跡の中だけでなく、周辺の川や森など縄文人が利用した自然環境も保全されています。

#### 考古学研究の発展に寄与

明治時代から多くの人類学者・考古学者が発掘に訪れました。



加曽利E式土器  
(縄文時代中期)



加曽利B式土器  
(縄文時代後期)



東京帝国大学人類学教室による発掘  
大正13(1924)年

# 縄文時代ってどんな時代？

今から約1万3千年前、氷河期が終わりを迎え、急激な温暖化とともに日本列島に豊かな自然が広がりました。

当時の人々は、イノシシやシカなどケモノの狩りだけに頼らず、クリ・クルミやドングリ、マメ、キノコなどの野山の恵み、魚や貝などの海の恵を季節に合わせて大切に利用し、1万年以上にわたって安定した生活を営み続けました。

## 貝塚は縄文人の暮らしをひも解く情報の宝庫

貝塚では、貝殻のカルシウムによって、通常の遺跡では残らない動物の骨などが保存されています。そのため、貝塚を調査することで、縄文人がどのような道具を使い、何を食べて暮らしていたのか詳しく知ることができます。縄文人の暮らしを支えた自然環境を復原することも可能です。

### いろいろな貝塚

集落の中につくられたムラ貝塚、海の近くにつくられたハマ貝塚に大きく分けられます。ムラ貝塚からは生活の道具や埋葬された人骨などが数多く出土しますが、ハマ貝塚は浜辺で身を取り出す作業場であったと考えられ貝殻以外はほとんど出土しません。

ムラ貝塚では、使われなくなった竪穴住居の跡や斜面に貝殻が捨てられた小規模なものから、長期間にわたって貝塚が形成され、馬のひづめのような形（馬蹄形）、あるいはドーナツのような形（環状）をした大型のものまで、様々な規模・形があります。



竪穴住居の跡に残された貝塚  
(加曽利貝塚・東傾斜面)

### なぜ、東京湾沿岸に貝塚が多い？

縄文時代の急激な気候変動は、東京湾の姿を大きく変えました。海水面の変動や多量の降雨により、河川から栄養に富んだ土砂が東京湾に流れ込むことで、千葉県側の海岸に遠浅の干潟が大きく発達し、様々な魚や貝がすむ豊かな海が育まれました。

縄文人はその恵にいち早く目を向け、豊かな生活を送りました。その証が、東京湾沿岸に数多く残された貝塚なのです。



今も残る東京湾の干潟  
(木更津市盤洲干潟)

千葉市立加曽利貝塚博物館  
千葉市若葉区桜木8-33-1  
TEL 043-231-0129 FAX 043-231-4986  
詳細は加曽利貝塚博物館ホームページまで

加曽利貝塚博物館

